くにみ

【第59号】
昭和37年8月15日発行
非売品
発行所　国見町公民館
発行人　佐藤善次郎
編集人　鈴木美一
印刷所　宇佐美印刷所

暴れまわった集中豪雨
山津波など被害甚大

七月十三、十四日の集中豪雨は、わが国見町にとつて未曾有の洪水となり、大木戸、小坂方面の雨量は、二四二・五ミリを記録し、山間部に入るに随い益々ものすごく、おそらく三〇〇ミリを越したものと推測されている。

殊に東内谷においては山津波の襲来を受け、耕地の流出並に埋没、道路河川の崩壊、橋梁の流失等滝川筋のはんらんはものすごく、上水道管の切断による断水等の被害はまことに甚大である。一方大木戸方面においても、溜池の決潰牛沢川のはんらん、鉄道の破損による列車不通二〇時間というまことに前代未聞の災害であつた。

山津波ということは、新聞やラジオではよく聞くことばであるが、現実にその場に出合い、又その爪跡を見たものは、その猛威のおそろしさに身ぶるいすることであろう。

今度の原因となつた金有沢は、V字状の奥深い谷川である。その急斜面の一部が地すべりして谷の一部をせきとめ、その奥に大きなダムを作り、それが豪雨と共に下流に移動流出しながら、途中の立木を根こそぎ押倒し、泥流と共に下流耕地に迫つたのである。

当時下流の畑で水よけをしていて危く難をまぬがれた熊坂幸一さんは、身ぶるいしながらそのときの模様を次のように語つている。

「ガラ／＼／＼ッというまるでジェット機の編隊襲撃でもうけた様な音がしたので顔をあげると、屋根の高さより高い泥と材木の襲来です。あとはどこをどうして逃げたかわかりません」

また、丹精こめたこんにやく畑三反歩(四年目のあげ玉)が一瞬のうちに石河原と化した熊坂イセさんは

「まるで夢のようです。永年かかつて育てあげたこんにやくも惜しいが、一生かかつて作りあげた畑は金ととりかえることはできません。しかし水よけに出て死んだものと思つていた夫が無事だつたので、大難が小難ですんだとあきらめています」

と語り、そばで聞く者の涙を誘つていた。

人畜に被害のなかつたことはほんとうに不幸中の幸とみんなは語つている。

川も道路も、水路も橋もなくなつた東部落では、老若男女総出で復旧にけんめいである。西部落の応援や親戚知己の手助けを受けるなど容易な仕事ではない。山崎、石母田大木戸その他の地区でもそれぞれ緊急処置を講じている。

町においては、七月十六日緊急町議会を招集し、災害対策本部を設け、関係方面に陳情、請願を行ない、町長を陣頭に、各係は日曜を返上し、炎天下に復興計画に努力を続けている。殊に土木係は、急を要する補助事業のため、徹夜やるのやむない状態である。

今回の災害は、国見町だけで復興できるものではなく、各関係官庁と緊密な連けいをとり、且つ非常な応援を受けることが肝要である。それで目下、国庫補助獲得に日夜努めると共に、関係各位の応援により復興の一日も速かなることを希望するものである。

災害対策本部の調査によれば、災害の概略次の通りである。

河川の崩壊	一ヶ所
橋梁	一〇〃
道路	一三〃
溜地	五〃
頭首工	八〃
農道	四〃
水路	一〃
林道	一〇〃
地すべり	三〃
田畑荒廃	二〃
山林	九団地
農作物被害	一ヶ所
外小災害は約	一、二三五万円

【写真】上…石河原となつたこんにやく畑。中…一面砂原と化した水田。下…水田に流れこんだ大木。(何れも内谷地内被害地で写す)

◎八月三十一日は……町県民税第二期・国民健康保険税第二期・県税事業税第一期……の納期です

新しい社会教育委員決まる

社会教育法才四章の規定によつて地方公共団体には社会教育委員をおき、社会教育に関する計画の立案その他の職務を行うことになつている。

記

県北中学校長　小林美秋
藤田小学校長　古川松太郎
大枝小学校長　渡辺末吉
国見町青年団　玉手正平
国見町婦人会　高橋とみ
PTA　菅野七郎
町会副議長　東海林一郎
町会議会八島福太郎
社会福祉協議会
社会教育連絡会後藤豊松
公民館長　佐藤善次郎

尚これらの社会教育委員の職務はどんなものか、社教法才十七条を見ると次のようなことが書いてある。即ち

社会教育委員は、社会教育に関し教育長を経て教育委員会に助言するため、左の職務を行う。

一、社会教育に関する諸計画を立案すること。
二、定時又は臨時に会議を開き、教育委員会の諮問に応じ、これに対して意見を述べること。
三、前二号の職務を行うために必要な研究調査を行うこと。
2、社会教育委員は、教育委員会の会議に出席して社会教育に関し意見を述べることができる。
3、市町村の社会教育委員は当該市町村の教育委員会から委嘱を受けた青少年教育に関する特定の事項について、社会教育関係団体、社会教育指導者その他関係者に対し、助言と指導を与えることができる。

高校生保護委員会

七月二十八日、藤田小学校礼法室で高校生の保護者総会を開き、校外生活の補導計画や役員改選等について協議した。各高校より関係の先生が臨席し、多数の父兄と共に夏休み中の生徒心得や花火大会、夏祭り、盆踊り等校外補導不良化対策について熱心に懇談した。

尚現在国見町より高校十八校に通学している生徒数は三二九名で、その内訳は次の通りである。

福高五一名、福女四一名、梁高三二名、福高二九名、白高二三名、福農二二名、福工二一名、白女二二名、保高一八名、緑が丘一二名、成蹊一一名、醸高一一名、学工九名、学一高七名、聖母五名、白工四名、盲ろう三名、飯高二名

今回選任された役員及び委員は次のとおりである。

◎役員
会長　菅野七郎
副会長　紺野正平
同　岡本真策
同　佐久間喜治
同　大沼六郎
同　佐藤深三
会計　紺野金兵衛
◎委員
◆藤田
紺野正平　古川要吉　古内潜作　佐藤利雄　鬼地善作
紺野金兵衛　八島貴正　斎藤正美　佐藤コト　湖内シ　吾妻四郎造　古川松太郎　中野助太郎　稲村ヨシ　佐藤磨治　奥山シマ
◆小坂
岡本真策　横山政市　安藤留次　新村国治　鈴木貞助　高橋千治　菅野貞雄
◆森江野
佐久間音治　菊地新一　小野吉四郎　大波久　佐久間恒八　伊藤一二　吉田正雄
◆大木戸
大沼六郎　斎藤善七　八島実　遠藤進　谷津一男　吉田広
◆大枝
佐藤深蔵　佐藤豊太　玉手健治　斎藤太三郎　金治　松浦真　松浦二郎　小林正夫　木村喜一　岩城

奨学制度について

一、奨学制度というのは、優秀な学生・生徒で、学資に恵まれないものを経済的に援助する制度で、育英制度とも言われている。援助の方法としては、奨学資金を貸与し又は給付したりする。

二、育英事業を行うのは国・県・市町村等の外、財団法人もあるが、ここでは、国見町の住民に直接関係があり又利用できる事業体についてだけその概要を述べる。

まず㈠「日本育英会」である。これは国の事業であり、最も規模が大きく、又範囲も広い。次が㈡福島県の育英事業である。これは県人が対象となる。㈢が国見町独自の育英事業である。これは昭和三十七年三月に県北中学校を卒業したものから対象となる。勿論、国見町の住民でなければならない。最後に㈣育英事業ではないが、これに似た事業で母子福祉資金の貸付等に関する法律による「修学資金」というのがある。これは母子家族及び孤児の場合に借りることができる一種の奨学資金である。何れの場合も貸与で、利息はとらない。

三、資格要件はいろ／＼あるが、各団体に共通なことは㈠経済的に学資が不足であると認められること。㈡成績が優秀であること。㈢健康であること。㈣将来性があること。等である。

これは高校や大学に進学しても、学資が幾らか不足するというのが相等多く、奨学資金そのものがその全部の者に貸与できるほど多くはないという現状から、ある程度厳選して、人員の制限をするのもやむを得ないことと思われる。

四、募集方法は、日本育英会と国見町の場合は、高校の奨学資金だと中学三年生の時に貸与予定者を決める予約制度を本則としている。勿論、実際の貸与は上級学校に入学した時から開始される。

県や母子福祉資金による場合は、高校や大学に入学してから募集しているようである。

◇

国見町奨学生特別募集
—高校一年生の場合—

一、応募資格
㈠ 国見町の住民である者
昭和三十七年三月県北中学校を卒業した者で現在高等学校に在学する者
㈡ 学業・人物・健康が優れている者
㈢ 経済的に奨学資金が必要であると認められる者

二、募集人員　三名程度

三、貸与額
月額千円とし四月分から貸与する。

四、募集期間及び手続き
㈠ 八月二十一日から九月三十日まで
㈡ 町・教育委員会事務局に申し出て手続きをすること。

五、その他
くわしくは、町教育委員会事務局に問い合わせられたい。

◇

国見町奨学生予約募集

一、応募資格
㈠ 国見町の住民で、現在県北中学校才三学年に在学する者
㈡ 学業・人物・健康が優れている者
㈢ 奨学資金が必要であると認められる者

二、募集人員　五名程度

三、貸与額
高校入学後(正規の修業期間)月額千円を貸与する

四、募集期間及び手続き
㈠ 十月一日より十月末日
㈡ 中学校に申し出て願書の交付を受け、必要書類を作成して提出する。

五、その他
くわしくは、町教育委員会事務局又は中学校に問い合わせられたい。

日帰りの安達太良登山！
青年学級で計画

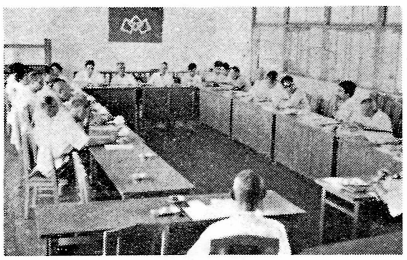
近頃の登山は、大衆化の美名にかくれて俗化し、形式に流れて軽薄華美な体裁だけを好む傾向が強くなつた。これに反撥を感じたわが町の青年たちは、健全な夏のスポーツとレクリエーションを兼ねて質実剛健の本領を発揮しようと、日帰りの安達太良登山をすることになり、参加希望者を募集している。要項次のとおり。

1、期　日　8月26日(日)　雨天の際は9月2日
2、コース
藤田駅発　(列車)　7.25
二本松発　(バス)　9.00
塩沢農民温泉　(これより徒歩)　10.00
湯川谷
八幡滝で昼食　11.00
くろがね小屋　12.00
鉄山頂　1.00
乳首山　2.30
岳温泉発バス　5.00
二本松駅発　(列車)　6.30
藤田駅着　解散　7.30
3、経　費　列車、バスで計350円　申込の際払込む
4、持参品　昼食、雨具(合羽類)着替下着類　その他
5、服装履物　その他すべて形式、体裁にとらわれず、実用を旨とする。沢登りをするのでサンダル、下駄、ハイヒール、草履、短靴等は絶対不可。
6、申込み　8月22日までに各方部委員に経費350円をそえて申込むこと。
7、青年団行事との関係　この行事はあくまでも青年一人ひとりに対するサービスを考えているので青年団行事に対抗するものではない。従つて青年団(単位又は部落青年団)にある計画を圧迫しないよう注意していただきたい。

◎穂発芽防止　◎としよりを大切にしましょう……九月十五日は「としよりの日」

町体の期日など決定

…公民館運審会議開く…



国見町公民館では、七月二十九日午前十時から役場会議室で、運営審議会を開き、町民体育大会の期日、会場をはじめ、公民館活動について協議した。提出されたこと次のとおり。

一、本年度の社会教育努力目標及び社会教育予算について

二、町民体育大会について

ことしは、十月七日(日)藤田小学校で行うこと、具体的なことについては実行委員会を開いて決定する。

三、視聴覚教育について

1、フィルム購入について

2、技術者養成講習会について

3、映画教育について

4、映写機の購入について

5、町視聴覚教育研究会の結成について

四、社会学級について

1、青年学級について

2、婦人学級について

3、成人学級について

4、老人学級について

五、指導者養成について

1、代表者派遣によるもの

2、講習会・研究会の開催によるもの

六、青少年教育について

1、青年学級

2、団体の健全育成について

3、社会環境の整備・浄化について

七、新生活運動の推進について

1、研究地区として森江野方部が指定

2、広報活動について

八、広報活動について

九、中暑お盆の実施と農休日の設定について

十、有線放送について

尚これらの各項について、特別な機会を設けて研究する

婦人技術者誕生

映写機操作講習終る

"ミシンよりやさしい"?

映画・ラジオ・テレビなどいわゆる視聴覚教具教材を使っての教育が非常に能率的であると共に、使い方によっては毒にも薬にもなるということは誰しも認めているところである。また、これらのものを使っての一方的大衆伝達即ちマス・コミの力は実に偉大で、このマス・コミのあらしの中にくらしているわれわれは、そういうものの受けとめ方を知り、受けとめる力を具えていなければならぬ。

最近、小中学校の先生方がその年令や性別を問わず、視聴覚教育技術を身につけ、映写機操作技術者の資格をとろうとするうごきが盛んになってきたことは、真によろこぶべき現象である。わが国見町内でも六十余名の技術者の中には相当数の先生があるわけであるが、こんどは「全職員有資格者」を目標に、去る十二日から三日、役場会議室で講習会を開いた。時あたかもお盆の三ケ日、しかも連日三十数度を越す炎熱にもかかわらず、朝から夕方まで熱心に講義を受けたり、実習をしたりし、最後の十四日には検定試験を受け、さすが先生方だけあって全員そろって満点、試験に当って係官を感心させた。

特に今回は四人の女の先生も参加し、「ミシンを踏むよりやさしいソイ」などようだんをとばしながらやっておられた。

今回の受講者

大杉光夫(藤田小)菅野タカ(同)石幡トキ子(同)根本敬子(同)佐藤治男(森江野小)菅野格男(県北中)猪俣カツ(同)長谷部明(同)半沢富男(大枝小)八巻忠一(森江野農協)大友光雄(農業共済)石田十四夫(同)

藏王登山の記

国見山友会

「もう少し」と大きな自然石に白ペンキで書いてある。

つぎに「ガンバレ」とある。激励のつもりであるが、ガンバリがきかなくて尻をついてしまう者がある。

刈田岳の「胸つき八丁」である。右手に雄大な「お釜」黒ずんだ斜面をつくる断層が神秘的にも美しい。残雪のスロープ、渓流、沢登りの姿もいわかがみ、ドーダンつつじ……などさまざまな高山植物に配した奇石怪岩、いかなる名工といえどもこれを作りこれをえがくことはできまい。

三キロほどでかもしか温泉につく。大きなはえやあぶに攻められながら昼食をとる。蔵王の噴煙を仰ぎながら七曲りの急坂を一行におくれじと歩く。そこには可憐ないそつつじが咲いていた。

エコーラインが開通した。山の銀座ができたり、赤黄の山の売店、アロハの男女がサンダルばきで横行する姿を見て憤がいする向きもある。山の大衆化も結構であろうが、やはり山は自然の姿こそ愛すべきものであろう。エコーとはギリシア神話に出て来る森の女神のこと、「こだま」のことだとある。

山を愛する者はロマンチストであり、画家であり、詩人である。

国見山友会では、こんど、会の象徴であるバッチを濃いグリーンの地に白く染めぬいた会旗を作った。あの山、この川に、この会旗をひるがえしたいものだ。

尚十月には本年度第三回の行事として安達太良登山をする予定であるので同好の士の参加を希望する。(T S生)

【写真】は頂上での一行

〝町から結核をなくそう〟

本年も別表のとおり結核検診を実施いたしますので、保育所及び小中学生以外の方は全員もれなく受けて下さい。

1、該当者には地区担当の保健委員より検診票をお配りします。

2、各地区日割当日都合のわるい方は、各自都合のよい他の地区検診場で受けられて結構です。

3、検診時間午前十時～午後三時三十分、但し大枝は午後三時まで

月日	部落名	該当者数	実施場所
八、二三	小坂全地区	一、一八七	小坂小講堂
二四	大枝全地区	六一八	大枝小〃
二八	大木戸全地区	一、二〇三	大木戸小〃
二九	森江野全地区	一、五一二	森江野小〃
三〇	山崎南北、駅前	五〇三	山崎公民館
〃	石母田	四七七	石母田〃
三一	錦町、大町南北、本町、宮町南北町東、鶏町、板橋	一、五六五	藤田小体育館

水道の拡張工事受付始まる

大木戸・大枝方面

三十六・三十七両年度において拡張計画を実施中であるが、今年は大枝川内地区と大木戸・高城・光明寺方面に第二期工事を施行する。役場では各地区毎に一応の説明会を行ない、目下給水申込書を受付けている。秋の取入れ前に配管工事を終了するため、九月から着工したいと意気込んでいる。尚大木戸小学校のプール給水も計画している。

小坂簡易水道を改善

かねて地区民から待望されていた小坂地区の簡易水道もいよいよ事業変更の認可申請書類の提出も終り、この秋ごろ着工することになった。工事費約一四五万円。

としよりを大切にいたしましょう

〔編集後記〕

ものはづけ

招かざる客

◎思わないところにやってくるもの…里のおかみと山津波

◎忘れたころにやってくるもの…火事と交通事故

◎思っているところにやってくるもの…秋のすずめと選挙違反

時事いろはカルタ

い…言いわけしながら爆音器(人家の軒先はえんりょして)

ろ…論より実行(公民館活動)

は…拝見しましょう、お手並を(女先生も映画技師)

に…にくまれっ子も人の子(みんなで補導を)

ほ…穂発芽にご用心(豊作が平年作です)

へ…へそくり結構(計画貯蓄を)

と…としよりもべんきょう(老人学級を)

裾野の旅

リレー報告記

(2)

担当者　鈴木彦衛

(次回は古川松太郎氏)

＜助役さんもぞうきんかけをしたこと＞

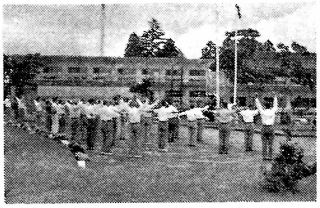
生活規律に従って午前六時起床――もっとも、それより早く目がさめても何もすることなしで、佐久間助役さん、古川校長さんと三人で、自分のベットの上でタバコをふかしたり、アメ玉をなめたりしていたが――つぎつぎにマイクで連絡される。六時からのいそがしいこと。

洗掛、シーツの返納、毛布五枚のたたみ方、へやの掃除。佐久間助役さんも、すすんで床板のぞうきんがけをする。(なん十年ぶりかな?)六時半までに洗面まで全部すませて朝の集会である。みんな若返って、けっこうきび／＼とやった。

朝の集会は、国旗と青年の家の旗の掲揚をし、ラジオ体操をやる。折から、朝の富士が、霧の間からスーッと全容を現わす。おおらかにも美しいたたずまいに、おもわずみんなの歓声。さてラジオ体操は、ちょうど三重県鈴鹿婦人会の一行といっしょ。テレビだれも指揮者が出ない。とうとうおはちがこちらに廻ってきた。美一先生に写真はとられるし、ついボーッとなったようで、体操の順序を違わないことで精一ぱい。すごく速かったそうな。

＜ひこ星ついにおり姫にあわず＞

年に一度、天の川をへだてて逢うというけん牛星と織女星よりも、絶えて久しくお目にかからなかった湯上二郎課長さんの住宅(御殿場市内にあり)は電話一本がやっとの連絡方法、お宅の前川がはんらんして今にも水浸し、十数人の警備員が警戒に出ている。



課長さんの住宅(御殿場市内にあり)は電話一本がやっとの連絡方法、お宅の前川がはんらんして今にも水浸し、十数人の警備員が警戒に出ているとのこと。明朝こそとあきらめて寝た。六時半までの行方は、国見の若人たちみんなを連れて、一週間も泊りがけで文部省入りをし、現在青年電話してみたらすでにおそしとのことで精一ぱい。すごく速かったそうな。

六時半までの行方は、国見の若人たちみんなを連れて、一週間も泊りがけで文部省入りをし、現在青年電話してみたらすでにおそしとのことで精一ぱい。すごく速かったそうな。

＜青年も連れて来たいという話＞

才二宿舎の生活の指揮連絡は、塚本先生おひとりでぐんぐん進める。ち密で、しかも手ぎわよいこと感心のほかはない。七時半までに、はるばる福島から持参した「ドイツ唐檜」も場所を定めてりっぱに植えこむ。

才一宿舎までバスで十分。昨夜の豪雨に打って変った今朝の天気。施設設備をくまなく見学する。学習に体育運動に各種の活動用に、至れり尽せりの広大な設備に圧倒される。富士の麗容が、しばしば霧の間からかいま見られて、そのすがすがしさ、たくましさ、国見の若人たちみんなを連れて、一週間も泊りがけでおそしみたいと、みんなと語り合った。

＜富士は登る山か、眺める山か、ということ＞

名残はつきねど、青年の家と別れて次の日程へ。富士登山(ただし新二合目まで)の才二日目的地、三島市婦人青少年会館の見学には是ひ参加したい。そこで、おゆるしを得て富士をあとに、三島市に先行することにした。

私たち六人の別派行動は(国見町では、古川・佐久間・佐藤・鈴木)大成功でした。それは、ぐんぐん日程をのばしてしまったからです。

途中感あり「静岡の人の表情の明るさ」また「反射ろとは原子力発電所にあらず」、そして「江川太郎左衛門の姿」は、次の面」などは、次回の麗筆、古川校長さんの報告にゆずることとします。